

## 令和4年度 第2回放送番組審議会議事録

本年度第1回と同様、委員の皆さまに自主放送番組のDVDを送付の上、ご意見や改善点を聴取することとした。

### ◇委員（8名）

|             |             |
|-------------|-------------|
| 委員 川村 三千代 氏 | 委員 中平 成也 氏  |
| 委員 山下 量子 氏  | 委員 山陸 三郎 氏  |
| 委員 平井 千恵 氏  | 委員 町田 南州男 氏 |
| 委員 酒井 奈穂 氏  | 委員 廣瀬 正明 氏  |

### ◇番組名

組子細工に魅せられた土佐の匠  
「自分にしか作れない表現を求めて」

### ◇番組に対するご意見等（抜粋）

・組子細工とは部屋を飾る高価な装飾品のイメージで一般的に目にするのではないと思っていた。繊細な作業の繰り返し、気の遠くなるような長い時間をかけて一つの組子細工を仕上げている、面倒で大変な作業、でも作者の顔は楽しそうにワクワクしているように見え、番組に引き込まれるように最後まで見た。取材・構成ともに最高の番組だ。

・組子細工は、木材を組み合わせて作る日本伝統の工芸品で、木材を四角形や六角形などの形に組み合わせて、美しく複雑なパターンを作り出す技法である。その組子細工に魅せられた濱中氏の繊細な手作業により木に命が吹き込まれ作品として形になる工程が、短時間の番組構成の中で全体的にまとまり良く構成されていた。

・番組タイトルは「組子細工に魅せられた土佐の匠 自分にしか作れない表現を求めて」となっているが、組子細工に魅せられた濱中氏の心情や葛藤のようなものまでは感じられなかった点は少し残念に感じた。

・当番組の構成は、濱中氏をある程度知っている前提での紹介となっており、濱中氏の新作の制作工程を密着取材した内容だと感じた。今後は、タイトルと内容の整合性を考慮することで、見る人に伝わりやすくなり、内面や心情までフォーカスすることで、番組が地域の文化を保存し、情熱や技術を次の世代に伝えることができる貴重な記録資料となるのではないかと。

・初めて濱中さんの作品を拝見したのは約8年前なのですが、平面の世界から立体的な世界へと作品の可能性が広がってゆく様子に今後への期待感が高まった。

欲を申せば、濱中さんが組子細工に取り組むようになった理由、独学での難しさや苦勞、逆にそれゆえの面白さや楽しさ「土佐の匠」以前と以後のご本人の意識や周りの反応、取り巻く環境の変化など背景や人物像にも迫ってほしかったかなと思った。

・海外進出できるようぜひ今後ともご支援願いたい。宿毛の伝統工芸が承継できるように。

宿毛以外の幡多の活動も自主放送番組のテーマとして取り上げてほしい。幡多の身近なSDG2の取組事例などもみてみたい。

・大きな作品が出来る過程を見れてとても楽しかった。模型の中での目線がみれておもしろい。大きな作品だからこそ、本当に大変だなと分かる。出来上がったものでは、その大変さはわからないので、こうやって撮影しつづけてくれたことがすばらしい。色が違う理由も木材が違うからだとはよく分かった。

・ドームを楽しんでいる人たちの様子やその感想もあればより良いのではと感じた。

以上